

**牧師イザヤの
ビジネス講話365日
第1部 第13日**

「カエルは大海へ！」



・著作権について

本冊子並びに本冊子の表記は、著作権法で保護されている著作物です。

本冊子の著作権は発行者にあります。

本冊子の使用に関して、以下の点を十分ご留意ください。

・使用承諾に関する契約

本契約は、本冊子を持つ個人・法人（以下甲）と発行者（以下乙）との間での契約です。

本冊子を甲が受

理し開封したことにより、以下の契約に同意したことになります。

第一条 本契約の目的

乙が本冊子に含まれる情報を、本契約に基づき甲がしようする権利を承諾するものです。

ただし、使用は非独占的なものに限られます。

第二条 禁止事項

本冊子に含まれる一切の情報は、著作権法によって保護されます。本冊子に含まれる情報を、甲は乙の書面による事前許可なくして出版・講演活動およびメディア配信などによって一般公開することを禁じます。また、電子メディアによる配信等によって一般公開することを禁じています。特に当ファイルを 第三者に渡すことは厳しく禁じます。甲は自らの所属する会社や組織においてのみ、本冊子に含まれる情報を使用できるものとします。

第三条 損害賠償

甲が本契約の二条に反し、乙に損害が生じた場合には、乙は甲に対し違約金を請求する権利を有するものとします。

第四条 契約の解除

甲が本契約に反したと乙が判断した場合は、乙は使用承諾に関する契約を解除することができるものとします。

第五条 免責事項

本冊子に含まれる情報の使用責任の一切は甲にあり、この情報により甲に損害が生じて、乙は一切の責任を問われません。

第13日 『カエルは大海へ！』

おはようございます！

今日も、
素敵な1日の始まりですね！

今朝は

「カエルは大海へ！」

という主題です。

あなたはどこを泳いでいますか？

ある日の事です。

一匹のカエルが、
フト上を見上げました。

今まで、ずっと、
自分の「カエル生」
（人生を文字ってみました！？）
は、この井戸の中だった。

もちろん、新鮮な水があり、
虫もたくさんいて、
食べるには困らない。

でも、どうも井戸の上には、
さんさんと光りが差し込んでいます。

思ったのです。

『あの口の向こうには、
一体何があるんだろう？』

そう思ったカエルは、
矢も楯もたまらず、
壁をよじ登り始めました。

そして、ついに口のヘリに
たどり着きました。

おずおずと、
外を眺めてみようと……
おやまあ、
今までの「カエル生」では、
想像もできないくらい、

広い、広い世界がありました。

しかも！です。

少し先の方に目をやりますと、
満々と水をたたえた、
大きな池があったのです。

生まれ育った井戸の、
何十倍、いや何百倍、
下手をすれば、
何千倍もの大きさです。

これを目にすると、
カエルは井戸には
再び飛び込む気持ちには
なれませんでした。

外を見ていなかった時には、
十分満足していた生活でした。

食べるに困らないし、
いいじゃないか、
そんな思いになっていたのです。

しかも、井戸の中からは、
大合唱が聞こえます！！

「辞めておけ！」

「ムリだ！」

「あまりに危険だ！」

「お前なんかにゃ、できやしない！」

「今までだって、

無事に帰ってきたヤツなど

「いやしない！」

「無謀すぎる！」

「若すぎる！」

「経験がなさ過ぎる！」

まあ、騒々しかったこと！！

でも、でも、でも、です。

一旦、広い、広い、世界を見ると、
井戸は余りに狭い！！

そこで、カエルは意を決して、
ぴょこん、ぴょこんと、
飛びはねながら、
池へと向かったのです。

ドッボーン！！

池に飛び込んだカエルは、
今まで感じたことのない、
爽快感に全身があふれました。

今までですと、
ひとかき、ふたかきすると、
トーンと、直ぐに壁が来ました。

でも、池の端から端まで
泳ぎますと、何十かき、いや、
何百かきでも、行き着きません。

広い世界に、
しばし酔いしれていたのです。

ところが、しばらくしてから、
池の反対側に泳ぎ切ったところ、
陸に上がり、
ある木の枝によじ登りますと、
これまた広大な
湖が広がっているのが
目に入りました。

おやおや、
この池も大きいと思っていたが、
比べものにならないくらい
大きな湖だ！！

その姿に感動したカエルは、
また再び池に戻って、

泳ぐ気持ちになれません。

そして、意を決して、
その湖に向かって、
再び、ぴょこん、ぴょこん、と、
跳ねながら、歩いて行きました。

そして、湖に飛び込んだ時、
まあ、その清新な水に、
深い感動を覚えたのでした。

さらに、また、物語は続きます。

カエルは、湖の向こうに、
巨大な海が広がっていることに
気づくのです。

最終的には、
大海に飛び込み、
抜き手を切って泳ぐ、
海カエルとなったのです！！

海カエルになった
「元」井戸カエルは、
しみじみ、カエル生を振り返って
語ったのです。

「ああ、良かったあ。

あの時、井戸の口に光りを見て、
何があるんだろう？って、
よじ登ったのは、

大正解だった。

怖かったけれど、
心細かったけれど、
どうなるか分からなかったけれど、
思い切ってやってみて、
本当に良かった！

我がカエル生に、悔い無し！」

海カエルは、
初めて悟ったのです。

井戸から飛び立ったカエルたちが、
井戸に戻ってこなかったのは、
単に、食われて死んだからではない。

失敗したからでもない。

逆だ！！

あまりにも、
広い世界を見た時に、
もう2度と、
あのせせこましい、
井戸に戻ろうとは、
思えなかったただだ！！と。

でも、それは、
井戸の中で終始している者には
分からない。

だから、みんなダメになったと、
思いたい。

それで、
あの大合唱になっていたのだ、
と、深く悟ったのでした。

今朝は、カエルの話しでした。

あなたは井戸カエルでは
ありませんか？

自分の人生は、
こんなものさ、と、
直ぐやってくる壁の中で、
グルグル回りながらも、
自分を制限していませんか？

聖書の一節をプレゼントします。

~~~~~

「わたしを  
強めてくださる方のお陰で、  
わたしにはすべてが可能です」  
(フィリピ書 4.13)

~~~~~

そうです。

あなたに命を与えて、
今日も生かしておられる神様は、
明解におっしゃっています。

「あなたには
なんだってできるのだ！」
と。

自分を、

「井戸に住むべき者」

という枠組みから、
解放させましょう。

池でも、湖でも、
いや、大海でも良いのです。

思い切って、泳ぐ方が、
あなたらしいのです。

今朝は、

自分は海カエルになる！
井戸カエルを抜け出る！

このことを、
心にインプットして、
1 日を始めましょう。

祈ります。

天のお父様。

今、聖書から、

メッセージを聴きました。

今まで井戸カエルでした。

今日から海カエルになります。

広い世界を泳ぎ回ります。

主イエス・キリスト様の
お名前によって祈ります。

アーメン。

God is good! All the time!



牧師イザヤのビジネス講話 第 1 部 第 1 3 日

「カエルは大海へ！」

<http://krtruang.com/learn/24129.html>

Copyright (C) 藤林イザヤ Izaya Fujibayashi All Rights Reserved.